

我が国への国際テロの脅威

1 テロの標的とされる日本

イスラム過激派を中心とした国際テロの脅威が高まる中、我が国は、オサマ・ビンラディンとされる者が発した声明において、テロの標的として名指しされました。二〇〇三年（平成一五年）一〇月に、カタールの衛星放送によって放送されたこの声明では、米国への攻撃の継続を警告するとともに、英国、スペイン、オーストラリア、ポーランド、日本、イタリアのほか、クウェート等の湾岸諸国への攻撃を示唆しています。また、二〇〇四年（一六年）五月に、アラビア語のウェブサイトに掲載された声明では、アナン国連事務総長らの殺害には金一〇キロ、米英の軍人らの殺害には金一キロ、日本やイタリアのよ様な同盟国の者の殺害には金五〇〇グラムの報酬を与えるとしています。

我が国には、イスラム過激派がテロの対象としてきた米国関連施設が多数あり、これら

を標的としたテロが発生することも懸念されるところです。

さらに、インドネシアにおける爆弾テロ事件にみられるように、大規模・無差別テロの脅威は、我が国に地理的に近接した東南アジア地域にも及んでいます。



オサマ・ビンラディン（時事）

2 アル・カーイダ関係者の我が国への不法入出国事案



我が国に潜伏していた「アル・カーイダ」関係者（時事）

こうした中、「アル・カーイダ」関係者であり、殺人、爆弾テロ未遂等の罪で国際刑事警察機構（ICPO）を通じて国際手配されていたフランス人が、二〇〇三年（一五年）一二月にドイツで逮捕され、他人名義の旅券を使用して我が国に不法に入出国を繰り返していたことが判明しました。さらに、別のイスラム過激派メンバーが、同人と同居して我が国に一時滞在していたことが判明するなど、

国際テロリストが我が国に潜伏していた実態が明らかになりました。

我が国には、イスラム諸国出身者が多数滞在し、コミュニティを形成していることから、今後、イスラム過激派が、こうしたコミュニティを悪用して、資金・資機材の調達を図るとともに、様々な機会を通じて若者等の過激化に関与することが懸念されます。

3 邦人が被害に遭ったテロ事件

一 イラクにおける邦人関連事件

海外では、邦人や我が国の権益を巻き込んだテロ事件が発生しています。特にイラクでは、武装グループが邦人を人質とする事案等が相次いで発生しています。

これまでにイラクで発生した邦人被害に係る人質事件、殺害事件等の概要は次のとおりです。

(一) イラクにおける外務省職員殺害事件

二〇〇三年（一五年）一月、何者かが、テイクリートの南方約三〇キロメートルの地点で、外務省職員二人を襲撃し、同行の運転手と共に殺害しました。

(二) イラクにおける三邦人人質事件

二〇〇四年（一六年）四月、「サラヤー・アル・ムジャヒディーン」を名乗る武装グループが、ファルージャで、邦人三人を人質としました。武装グループは、人質とした邦人三人の解放条件として、我が国に自衛隊の撤退を要求しましたが、その後、邦人は無事解放されました。

また、同月、バグダッド近郊でも邦人二人が何者かに拘束されましたが、後に、無事解放されました。



イラクにおける邦人人質殺害事件を大きく伝えるイラク各紙（共同）

(三) イラクにおける邦人ジャーナリスト殺害事件

二〇〇四年（一六年）五月、何者かが、バグダッド郊外で、邦人ジャーナリストとイラク人各二人が乗車する車両を襲撃し、邦人ジャーナリスト二人、イラク人一人を殺害しました。

(四) イラクにおける邦人人質殺害事件

二〇〇四年（一六年）一〇月、アブ・ムサブ・アル・ザルカウイが率いているとされるイスラム過激派組織「タンジーム・カーイダ・アル・ジハード・フィー・バード・アル・ラフィダイン（二つの大河の国の聖戦基地組織）」を名乗る武装グループが、邦人旅行者一人を人質としたとの声明を発表しました。武装グループは、その後、人質を殺害しました。

(五) イラクにおける邦人拘束容疑事件

二〇〇五年（一七年）五月、「アンサール・アル・スンナ軍」を名乗る武装グループが、ヒート近郊で、英国系民間警備会社が警備する車列を襲撃し、同社に勤務する邦人一人が行方不明となりました。

「アンサール・アル・スンナ軍」については、ザルカウイが率いる組織との関連が指摘されています。

二 その他の邦人が被害に遭ったテロ事件

一九九六年（八年）二月に、ペルーの左翼テロ組織が引き起こした「在ペルー日本国大使公邸占拠事件」は、我が国の権益や在外邦人に対するテロの脅威を改めて明らかにするものでした。

近年は、イスラム過激派によるテロの脅威が高まる中で、我が国の権益や在外邦人がテロの標的となるなど、イスラム過激派によるとみられるテロの被害に遭う事件が発生しています。

一九九七年（九年）一月には、エジプトのルクソール・ハトシエプト女王葬祭殿において、武装グループが銃を乱射し、邦人一人を含む死者六二人、邦人一人を含む負傷者二四人の被害を出した「エジプトにおける観光客襲撃事件」が発生しました。本件は、犯行声明等から、同国最大のイスラム過激派組織「イスラム集団」によるものと判明しています。

一九九九年（一一年）八月には、中央アジアのキルギスにおいて、国際協力事業団（現・国際協力機構（JICA））の資源開発調査に従事していた邦人四人を含む七人が誘拐される「キルギスにおける邦人技師拉致事件」が発生しました（邦人は同年一〇月に解放）。こ

の事件は、オサマ・ビンラディンと関係を有するとされる「ウズベキスタン・イスラム運動（IMU）」のメンバーによる犯行とみられています。

二〇〇一年（一三年）九月に発生した「米国同時多発テロ事件」では、ハイジャックされた航空機に搭乗していた邦人と世界貿易センタービルの崩壊に巻き込まれた邦人の計二十四人が犠牲となりました。

二〇〇二年（一四年）一〇月の「インドネシア・バリ島における爆弾テロ事件」においては、邦人二人が犠牲となりました。

二〇〇三年（一五年）五月に発生した「サウジアラビア・リヤドにおける外国人居住区連続爆破テロ事件」では、外国人居住区三か所に大量の爆発物を積んだ車両が突入して自爆し、三四人が死亡、邦人を含む一九四人が負傷しました。同事件は、「アル・カーイダ」による犯行とみられています。

二〇〇五年（一七年）一〇月に発生した「インドネシア・バリ島における同時多発テロ事件」においては、邦人一人が犠牲となりました。



インドネシア・バリ島における同時多発テロ事件
(2005年(平成17年)10月)